



 向山にじも (素)

AI時代になると言われている2040年代。
きっと、今以上に社会は目まぐるしく変化し、
答えのない時代を生きていくことになるでしょう。

そんな時代を生き抜くためには、
乳幼児期に何をすればいいのか。

それは、『質の高い遊び』
『対話を通じた協同的で深い学び』

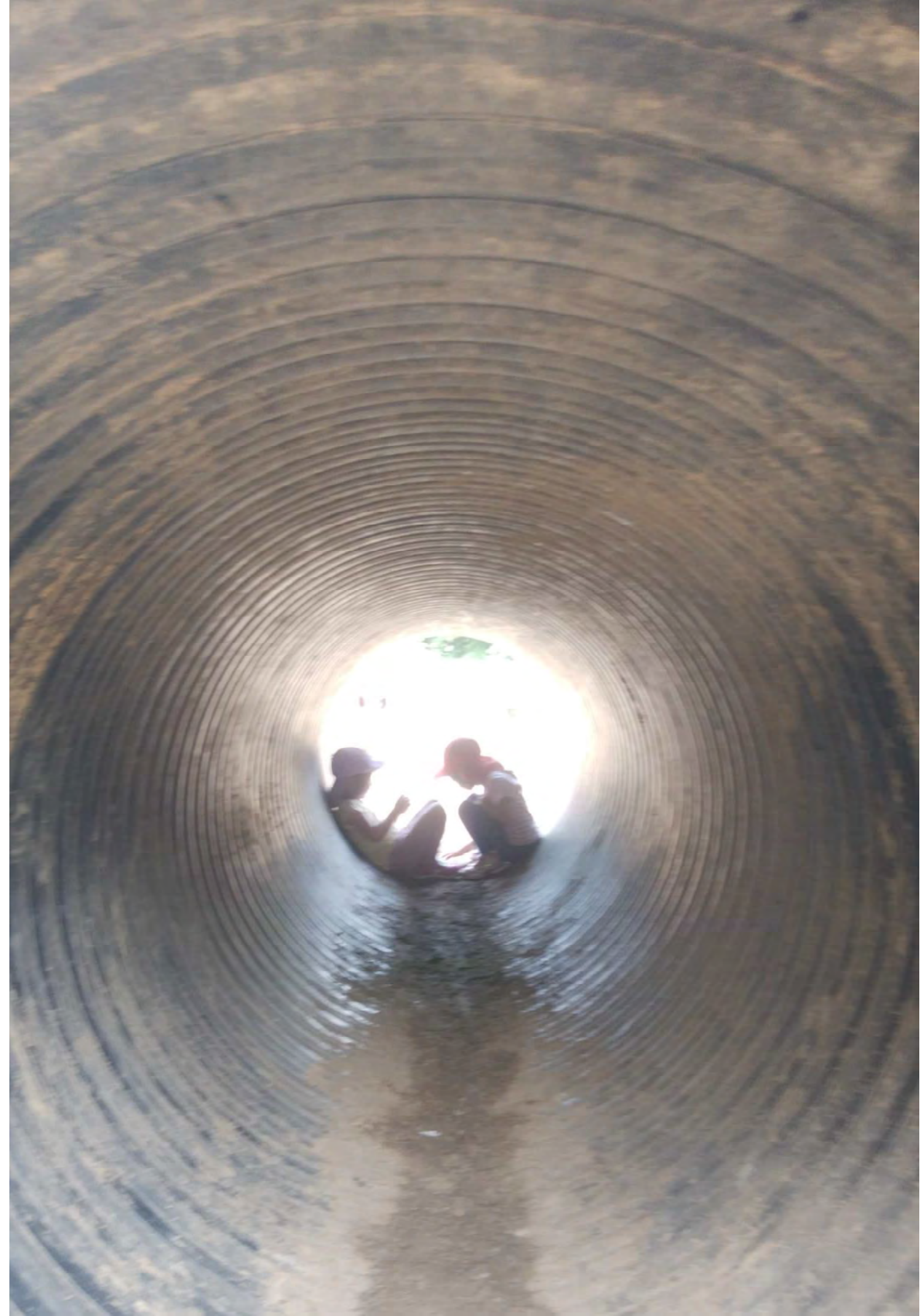
季節によって変化する園庭

子どもの興味関心に合わせた室内環境

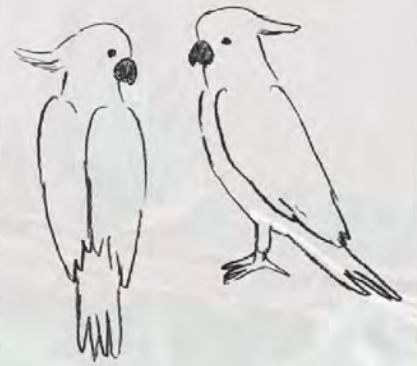
そして、子どものことを毎日語り合い、
一人一人の成長を支える保育者

質の高い遊びができる環境と仕組みが、
向山にはあります。

さあ、VUCA時代を生き抜く力を育む
向山の教育を覗いてみましょう。



もくじ



- P6 園長挨拶
- P8 向山こども園の概要
- P10 向山こども園MAP
- P12 向山こども園の1年
- P16 ばっぱんちの1日
- P18 ゆうぼうの丘の1日
- P20 行事の考え方
- P24 向山の安全管理
- P28 向山の室内環境
- P36 向山のこだわり給食
- P44 数字で見る向山
- P48 保育の質を保つために
- P54 文献紹介




園長挨拶



園長挨拶

詳しくはこちら



50年以上前の園舎

本園は、創立67年の歴史をもつ幼児教育施設です。豊かな自然環境と充実した施設の中で、子どもたちが幼児期にしかできない様々な体験を存分に行うことができるこども園です。

森や丘や水辺の環境は、在るだけでは不十分です。それをどう活かすか、どう分かち合うかが重要です。幼児教育に熱い思いをもった保育者達が、日々アクティブに丁寧に子どもたちに関わり、子ども同士の時を紡ぎ出していきます。

園とご家庭が子育てする仲間になり、共に心を熱くして大切な子どもたちの教育にあたりたいと思っております。



園長 木村 章子

向山こども園の概要

向山こども園には、大きく分けて2つの部門があります。
3歳未満児の**ばっぱんち** と 3歳以上児の**ゆうぼうの丘**
です。

ばっぱんちは、**おばあちゃんのおうち** という意味。
大人も子どもも、おばあちゃんのおうちに来たという気持ち
になってほしいという願いを込めてこの名前になりました。

ゆうぼうの丘は、**有望** と **遊紡** という2つの意味が
込められています。

望みある未来に送り出す部門であるということ、そして、
遊びや生活を楽しみながら一緒に紡ぎ出すという保育の根
本を忘れないようにとの願いを込めて名付けました。

どちらの部署も、子どもたちが主体の生活ができるよう、
専門的な勉強をした保育者がサポートします。



詳しくはこちら

ぱっぱんち

大人とのしっかりとした愛着関係を築き、
人ということに安心感を持つ

大人を安全基地として、様々なことに興味を持つ

大人の保護のもと、安定した生活を送り、
基本的な生活習慣を獲得する

ゆうぼうの丘

社会生活の基盤となるコミュニケーションが取れる人

自分の好きなことを見つけられる人

自主性・自立性・個性を伸ばし、
様々な環境の変化に対応できる人



オランウータンの森

虫や自然物との出会いがたくさん待っています♪



こひつじ棟

職員室や面談室があります。
お困りの際はこちらへ♪



まきば園庭山

じっちゃんち

ゆうやけの時間を利用する子どもたちが過ごす場所。
おうちに帰ったようなほっこりする場所です。



ばっぱんち

1・2歳が過ごす場所。
1人ひとりがゆったり自分のペースで過ごせるような環境になっています。



まきば棟

4・5歳が生活する場所。
2階建ての造りになっていて、各年齢のランチルームもあります♪



環境

詳しくはこちら

向山こども園

礼拝堂



今年度解体予定。ここに新しい
年少の保育室が建ちます。
(2024年度冬完成予定)

オリーブハウス

未就園児クラス『こびとの
ティールーム』を行っている
場所です。詳細は、後半
の紹介をご覧ください♪



現在は田んぼですが、
2024年に新ホールが
建つ予定です!

ひいらぎ棟 (2024年度解体予定)

3歳が過ごす場所。
フラットな作りの中で、1人ひとりが
好きなことを思う存分できるような
環境作りをしています。

季節ごと
変化するのが
魅力!

かめっこ川

2022年夏、地域の方から頂
いた石を使い、水あそびを
思いっきり楽しめる場所が
完成しました。

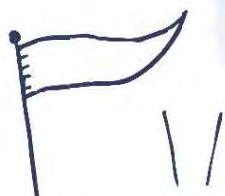
Cafe

lun2deux3trois, soleil!

(カフェソレイユ)

大人も子どもも、地域の人も
職員も、みんなの居場所にな
っている居心地のいいカフェ☆

園内MAP



向山こども園の1年



詳しくはこちら

- 4月 ばっぱんち入園進級式
 ゆうぼうの丘 WelcomeDay
- 5月 羊の毛刈り 引き渡し訓練
- 6月 創立記念祭・同窓会 花の日礼拝
- 7月 年長サマーキャンプ 夏休み
- 8月 あかねフェスティバル
- 9月 低年齢リトルオリンピック
- 10月 入園願書配布 高年齢リトルオリンピック
 木イベント 年中・年長参観
- 11月 入園願書受付 収穫感謝礼拝
 年少リトルフェスティバル
 アドベント礼拝
- 12月 キリストこども市 クリスマス親子礼拝
- 1月 もちつきイベント 年少・モモ参観
- 2月 年中・年長リトルフェスティバル
- 3月 シャットダウンDay 卒園式



羊の毛刈り



Mukaiyama
Spring
Summer



花の日礼拝



年長サマーキャンプ



田植え



あかねフェスティバル



リトルオリンピック



収穫感謝礼拝



おさかなまつり



Mukaiyama
autumn
winter



リトルフェスティバル



卒園式



クリスマス親子礼拝



ばっぱんちの1日 ~1・2歳~

7:30~

随時登園

9:30

登園完了 午前おやつ



9:40~

子ども主体の遊び



11:30~

各自のペースで昼食



12:30~

各自のペースで午睡

15:00

午睡終了
各自のペースでおやつ



16:00~

随時降園

17:30

ゆうぼうの丘 (3~5歳) 合流

18:30

降園完了

A photograph of three children sitting in a shallow stream. The child on the left is wearing a white t-shirt and a green safety hat. The child in the middle is wearing a dark shirt and a green safety hat. The child on the right is wearing a blue shirt and an orange safety hat, and is smiling broadly. The water is clear and the background shows a rocky bank.

ゆうぼうの丘の1日～3・4・5歳～

7:30

随時登園



8:30

各クラスに登園 1コースバス到着

9:30

2コースバス到着 送迎の方登園完了
子ども主体の遊び



11:30~
12:30

各自のペースで昼食



13:00

帰りの集まり

13:30

1コースバス出発

14:30

2コースバス出発
ゆうやけの時間（預かり保育）スタート

15:00

各自のペースでおやつ

16:00

4時バス出発

17:30

ぱっぱんち（1～2歳）合流



18:30

降園完了




行事の考え方

「行事」と聞くと、運動会や学芸会などを思い浮かべる方がいらっしゃるかもしれませんが。

しかし、向山で行われている行事は全く違います。

向山では、「子どもの教育上必要な行事」を探究し、毎年子どもたちに合わせたプログラムを考え、行っています。

A group of children and adults are gathered around a large metal pot with a wooden lid. One child in a colorful patterned shirt is looking into the pot, while another in a yellow shirt is looking on. They appear to be participating in a cooking activity.

サマーキャンプ (お泊り会)



1泊2日、園に泊まるサマーキャンプは、年長さんのみの行事です。ドキドキワクワクし、自分たちのやりたいこと、食べたいものを考えるプロセスを大切にしながら、子どもたちと一緒に計画していきます。自立していく子どもたちの第一歩をみんなで踏み出します。

ごはんを自分で炊きたい、ダンスをしたい、夜の虫を捕まえたい…。夜まで過ごせる特別な日だからこそ、子どもたちはやりたいことがいっぱい！

そんな思いを実現するため、同じ遊びの子ども同士、そして保育者も一緒になって相談したり、考えながら当日に向かっていきます。



リトルオリンピック (運動会)



リトルオリンピックは、体を目いっぱい動かして楽しむ一日。あえて運動会と言っていないのは、いわゆる運動会の種目をするわけではないからです。オリジナルの競技やパフォーマンスなど、その年の子どもたちに合わせて毎回行う内容が変化していきます。

普段楽しんでいることからスタートしているので、当日に様々なハプニングや話し合いが行われることもしばしば。1年の振り返り地点の時期だからこそ、このようなプロセスがとても大切だと考えています。



大豆生田啓友先生の本で
紹介されています!





リトルフェスティバル
(発表会)



リトルフェスティバルは、子どもたちが企画する発表会のこと。
年中・年長は年度末に行われるため、それぞれの学年の集大成の行事といえます。

とはいえ、子どもたちが考えるものなので、過程を知らないとプロの保育者が見てもよくわからない内容です(笑)

そこで、保護者の皆さんには、舞台裏などを生中継し、お手元のスマートフォンで見ることができるようになっています。解説もつくので、子どもの考えていることや、やりたいことが手に取るように分かり、笑いあり涙ありのステージを見ることが出来ます。



向山の安全管理

季節ごとに変化する園庭。広大な敷地。たくさんの自然。どれも向山の魅力ではありますが、その中で子どもたちが安全に過ごせるよう、様々な対策をしています。



詳しくはこちら

安全教育

『自分の力で行けるところまで行く』

無理に登らせず、自分の気持ちや体と相談しながら、『自分で行けるところまで行く』が基本です。

遊具の安全基準の専門家と相談し、砂を厚く敷くなど、万一の転落に備えるなどの安全対策をしております。



この時期に1番大切なことは、子どもの“危機回避能力”を育てること。子どもたちは園庭を所狭しとかけまわり、挑戦し、小さな擦り傷を作りながら、自分の身の丈を知っていきます。

また、火や包丁、トンカチ等は、排除するだけではなく、大人の管理下であえて使用し、適切な使い方を教えてもらいながら、危ないことも学んでいきます。

自然教育

『自分の動きや行動を
自然環境に合わせてながら遊べるように』



自然は、子どもにとって大切なものですが、時として、人間にとって有害なものもあります。その一つが虫。毛虫やハチなどは、子どもたちに触らないよう、しっかり指導しています。

それでも防げないのは蚊。デング熱の心配もあるので、園ではモスキートマグネットを設置して、メスの蚊だけを集めています。蚊の習性を利用し、二酸化炭素と動物のにおいでおびき寄せ、乾燥させて駆除するこの装置は、殺虫剤を使わずに蚊を駆除できます。生物多様性を感じるために、自然に手を加えるのは最小限にし、安全に子どもが手を触れられる自然環境づくりを心掛けています。

幼児期から、人間がコントロールした環境ではなく、自分の動きや行動を自然環境に合わせてながら上手に遊べる事で、将来、自然に敬意を持ち、様々な生物を尊重しながら生活する基盤となると考えています。

安全対策

『子どもたちがやりたいことを
最大限実現させていくための対策』



月に1度の安全対策会議

毎日の怪我を記録し、その記録を学年ごとに分析したものを持ち寄り、月に1度『安全対策会議』を行っております。

年齢によっても、危険な箇所や遊び方は変わってきます。発達段階をふまえ、どんな環境や遊び方がいいのか考えながら保育を行っています。



暑さ対策

ここ数年、猛暑日が連日続くようになりました。そんな中でも、安全に外遊びができるよう、ミスト発生装置を3台設置し、水遊びが様々な形で楽しめる環境をつくっています。



無線での共有

広大な敷地の中で、子どもの居場所を全保育者同士で把握できるように、無線を使ってやりとりを行っています。



A photograph of two young girls in a playroom. The girl on the left is wearing a pink patterned top and white pants with star patterns. The girl on the right is wearing a white t-shirt and white pants with a pattern. They are both smiling. The room has a red canopy overhead, wooden walls, and yellow storage bins. The text '向山の室内環境' is overlaid on the image.

向山の室内環境

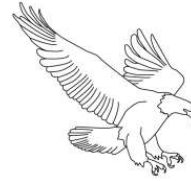
子どもたちの遊びに合わせた環境を用意しているからこそ、クラスによって全く違う室内環境になっているところも向山の魅力です。

ばっぱんち ~1・2歳~

向山の
室内環境

ばっぱんち とは、おばあちゃんのお家という意味があり、2年間、おばあちゃんのおうちに来たような気持ちで、子どもも大人も過ごしていただきたいと思っています。

おうちだからこそ、遊ぶ・寝る・食べるが別々の部屋になっていて、それぞれのペースを大切にすることができます。



詳しくはこちら→



各扉には鍵がついていて、子どもの安全を守ります

ランチルームとちっちルームの床は、掃除のしやすい床になっています





向山の
室内環境

ひいらぎ棟～3歳～



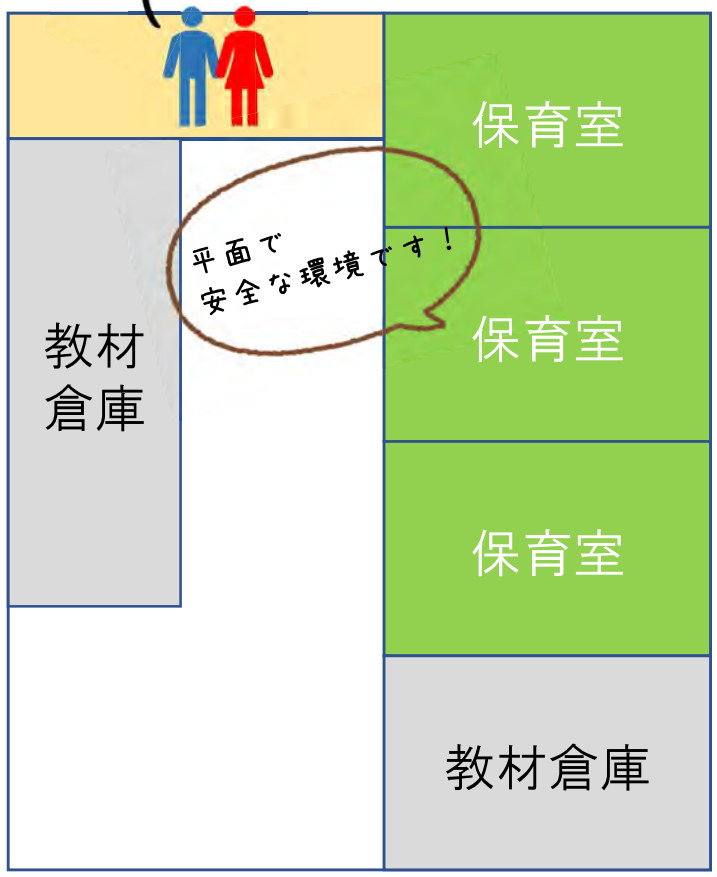
3歳児が使用するひいらぎ棟は、フラットで広い室内になっているのが特徴です。

様々なごっこ遊びをしたり、2～4人が楽しむコーナー（遊びの拠点）を作りやすいようになっています。

2024年度冬、新しい3歳児の保育室が完成予定です。

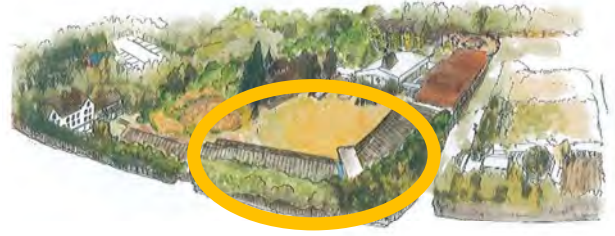


トイレの個室を怖がる子が多い年少さん。泌尿器科の先生のアドバイスのもと、あえて個室を作らず、安心して排泄ができる空間となっています。

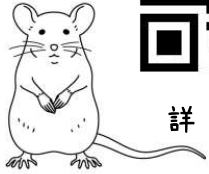




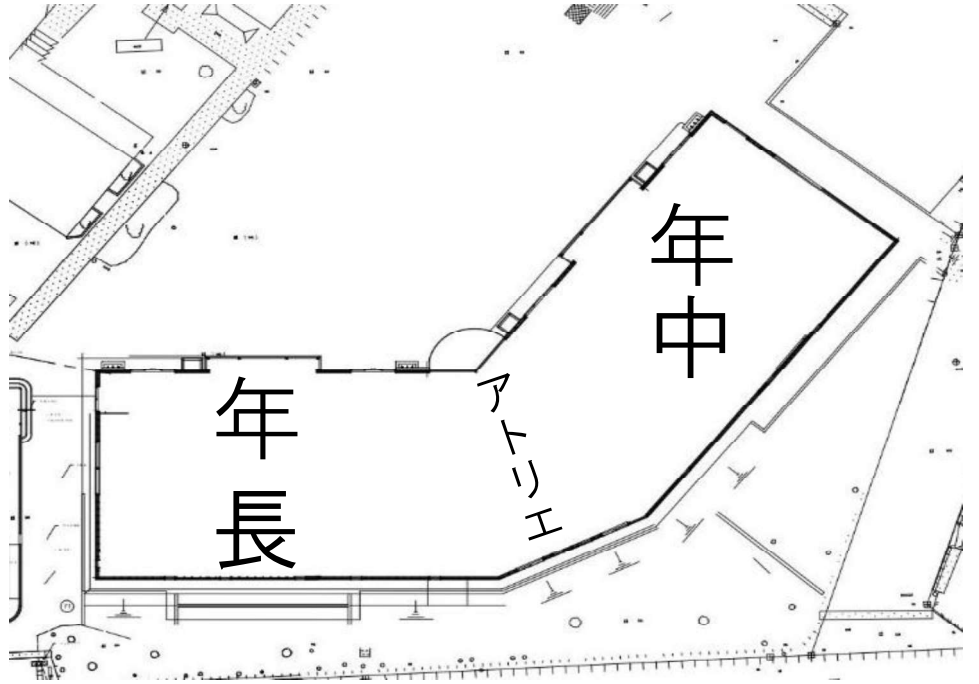
まきば棟 ～ 4・5歳～



まきば棟は、4・5歳の子どもたちが生活する場所です。
ロフトが全部屋にあり、平面に加えて、上下の空間を使った遊びも展開することができます。



詳しくはこちら



礼拝堂



向山の
室内環境

礼拝堂は、毎週月曜日の礼拝に加えて、各行事の際のホールとして使用されていました。また、今では年少児のランチルームとしても使用されています。

しかし、老朽化が進んでいるため、2023年度の冬に解体されることとなりました。礼拝堂のように、多目的に使えるホールは、新しく2024年度以降、建築される予定です。





向山の 室内環境

じっちゃんち



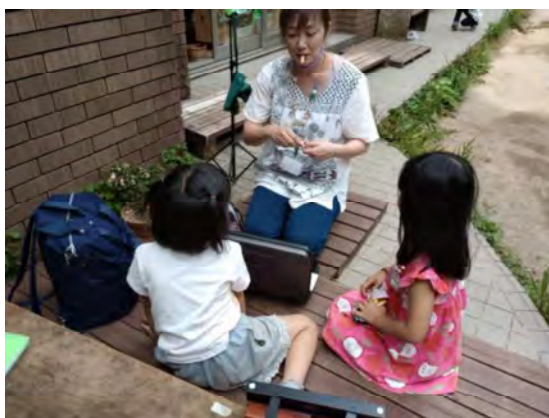
長時間保育児のための専用の建物がじっちゃんち、おじいちゃんのおうちです。

おやつ用のランチルームにソファのある絵本の部屋、地域のおじいちゃんやおばあちゃん、外国の方や保護者、さらに小学生のボランティアまで、たくさんの方と触れ合うことのできる、小さな地域がじっちゃんちの中にはあります。

他園にはない特別な施設の一つです。



詳しくはこちら



オリーブハウス



子育て支援のための棟『オリーブハウス』は、1階は子育て広場 こびとのティールーム、2階には保護者の方のための部屋が3部屋用意されています。
在宅で子育てをしている方が無料で使えるこびとのティールームには、ベテラン保育者が常駐し、様々な遊びを提案したり、子育てのアドバイスも行っています。
子どもが子どもらしくいていい場所がここにはあります。
オープンキッチンも運用を開始し、お料理教室やおしゃべりクッキングも楽しめます。



詳しくはこちら



ティールーム



～0歳から未就園のこども向けの子育て広場～

春の忙しい季節となりました。こびとのティールームでは、先日親子で野菜の苗植えをしました。すいか、ゴーヤ、さつまいもなど成長と収穫が楽しみな苗をたくさん植えましたので、こびとの畑をのぞいてみてくださいね。
6月は体を動かす表現遊びを中心に親子で楽しみましょう。

開放時間
祝日も除く月曜～金曜
おさ9時～午後2時

6月のプログラム紹介

ベビーの日

毎週木曜日
11:30まで室内は0～1歳
専用の時間になります。
※園庭はどなたでも利用
できます。

壁面がろじえくと

オリブ文庫の壁に森を作ります。折り紙などで自由に工作をして、初夏の庭を作りましょう。

わらべうた・おはなし会

親子で楽しめるわらべうたや、手遊び、ふれあい遊びや、紙本・かみしばいのよみかかせの会を不定期で開催します。お楽しみに！

表現遊び

親子で身体を動かしましょう！

アート遊び

ちぎり紙

森のお散歩

不定期で行います。11時ごろから出発します。こども園の様子をみるすることができます。

電解水を配布しています

ペットボトルなどの容器をお持ちください。ティールームで除菌・消毒に使用している電解水は、こんなことに使えます。
・手洗・哺乳瓶・おもちゃ・おブツ
・布巾・スポンジ・洗濯機内
などの、雑菌に、またほろ雑菌にも使用できます。
冷蔵庫などで保管して2日間ほど使えます。

(予定は変更になる場合があります)

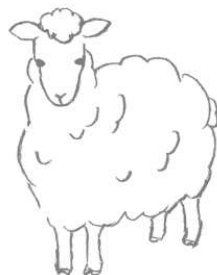


インスタグラム 親子での相談も随時、お気軽にどうぞ

こびとの ティールームだより



毎月発行しているおたよりです。
1か月の予定や、活動内容を紹介しています♪



活動紹介

羊の毛刈りを見学しましたか？



お外遊びも楽しんでませ〜！

みんなでジップジップ羊の毛を洗いました！



新型コロナウイルス感染症予防にご協力をお願いします

- *保護者の方はマスクを着用ください。
- *室内・園庭利用の前後に手洗いや消毒を行ってください。
- *長時間の室内滞在を避け、他の方との距離を保ってください。なるべく園庭で遊びましょう。
- *公衆の交通機関での乗降は極力ご遠慮ください。
- *おもちゃは衛生管理のため、カウンターで貸し出します。共有を避けるため、均ばるくなら、毎回洗拭してください。
- *飲食は決められた場所です。ご家族だけでお願いします。マスクを介しての会話はお控えください。

給食の試食

向山こども園で子どもたちが食べているお米や、その日のおかずから1種類を提供しています。(11:30～ 無料)

お誕生日のお祝い

お誕生日に近いお子さんは職員にお知らせください。小さなお祝いをしましょう。

麦茶の提供

お子さんの水分補給には麦茶の水をお持ちください。お代わり麦茶をご用意しています。マイボトルを持参ください。

おやずりコーナー

園内の入り口脇にある衣類や子育てグッズは無料でお持ち帰り出来ます。





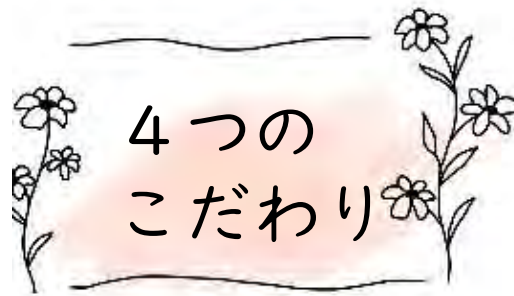
向山のこだわり給食

向山の魅力の1つが給食。毎日自園の厨房で、栄養満点の給食を作って提供しています。どんなこだわりがあるのか、次ページから詳しくご紹介します。



詳しくはこちら





1. 無農薬・低農薬

向山では無農薬、低農薬の野菜に、できる限りこだわって仕入れています。

もちろん、すべてというわけにはいきませんが、熱い思いをお持ちの野菜畑さんという八百屋さんを中心に、良質のものを取り寄せています。

加えて、玄米は、低農薬有機栽培の玄米を、山形にある農家の富樫さんという方から仕入れています。

2. 旬を大切に

食は、子どもたちの体だけではなく心も作っています。だからこそ、多様な食品、旬な食品に触れてほしいと思っています。

多様と旬を感じる食材は、野菜や雑穀、そして魚です。

この食品は価格の変動が大きく、近年高騰が続いています。

年間を通して流通する冷凍野菜は安価ではありますが、旬を感じることはできず、食育としては不適切だと考えています。

3. 調味料

調味料は、極力いろいろな添加物が入っていないものを使っています。

安価なものは、しょうゆであれみりんであれ、原材料を見るといろいろなものが入っていることが多いため、少し値段が高くても、使われている材料がシンプルなものを使っています。

また、めんつゆなども使わず、しょうゆとみりと出汁で『だし醤油』を作ります。もちろん、化学調味料も使用しません。

毎日摂るものだからこそ、その一つひとつにこだわりたいと思っています。

4. 献立

加工品についても、極力使用しないようにしています。

特に、揚げるだけになっているお肉やお魚の加工品は、産地が分からなかったり、材料がぼやかされていたりするため使用しないようにしています。

子どもの口当たりの良いものを重視するのではなく、子どもの体を作るもの一つひとつを大切に、和食中心の献立を心がけています。

また、認定こども園は市の監査を受け、適切な栄養価になるようにしています。

そのため、納豆やジャコなども追加してカルシウムを摂れるようにするなど、様々なことに配慮しています。



なぜ向山の給食代は高いの？

一言で言うと、食材・献立・食育にこだわっているから。
ここからは、小学校の給食との比較をしながら、詳しくお伝えしたいと思います。

野菜少なめな小学校の給食

仙台市ホームページより



左下の写真は、仙台市内の小学校の自慢のメニューです。子どもには人気がありそうですし、集団給食として効率よく作れるメニューです。しかし、向山の給食と比較して、圧倒的に野菜の姿は少ないように見えませんか？

このメニューはいったい何月のメニューなのか、皆さんには分かりますか？

批判するわけではありませんが、少なくとも私たちの考えとは少し異なる部分があるようです。

また、仙台市の様々な資料を見てみると、加工品も多く使用されているようです。この加工品には添加物が含まれています。

栄養成分表を見てみると、カラメルⅢやカラメルⅥ、亜硝酸Na、次亜硫酸Na、アセスファムK、赤105号・赤3号などが目につきます。

厳選されているようではありますが、すべては避けられません。

ちなみに、上記の添加物は、発がん性や臓器障害の原因になりうると警告されているものです。

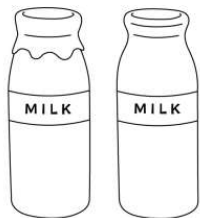
小学校の給食の値段

校種	炊飯方式	令和2年4月から	令和元年度
		一食あたり	一食あたり
小学校 特別支援学校(小学部)	委託炊飯	290円	245円
	自校炊飯 (宮城・秋保地区)		239円

給食費は実は自治体によって値段が違います。

右上図は、仙台市のホームページに記載されているものですが、仙台は比較的安い方のようです。

そんな小学校ですが、実は令和2年度より、給食費が値上がりしました。理由は、市の給食の栄養価が足りていないとの報道(右ページ参照)にもあるように、栄養の充足率を上げるのはとても難しいからです。



牛乳は万能！？

特にカルシウムと鉄は、実際に向山でも栄養の充足は難しい状況になっています。これらの栄養素は、小学校のメニューで摂るのは一見難しそうにみえて、実は摂取できています。それは、牛乳を飲んでいるからなのです。

しかし、向山では、牛乳に頼る栄養の摂取には否定的な立場をとっています。

栄養の充足率を上げるために



河北新報オンライン 2018年11月18日

仙台市立小中学校で提供される給食の栄養量が国や市が定める摂取基準を満たしていない問題で、宮城県内の他自治体でも学校給食が「栄養不足」に陥っていることが9日、分かった。給食費は自治体ごとに異なるが、高くても充足率が100%に満たないケースもあり、食材価格高騰の影響が深刻化している。

県内14市のうち、摂取基準に達していない栄養素があるのは仙台のほか、石巻、東松島、気仙沼、登米、多賀城、富谷、白石、角田の少なくとも8市に及ぶ。

仙台市教委によると、14市の給食費は表の通り。小学校は岩沼が最も高く、最も低い富谷とは40円の差がある。中学校は気仙沼が最高で、最も低い富谷とは52円開いている。

富谷市は2017年度、ビタミンCの充足率が中学校で68.6%と低迷。鉄も小学校73.3%、中学校75.0%にとどまった。市学校給食センターの担当者は「限られた給食費の中で、全ての栄養量を満たすような献立は難しい」と嘆く。

給食費が小中とも2番目に高い白石市でも充足していない栄養素が目立つ。ビタミンB1の充足率は小学校78.6%、中学校78.0%。炊飯を委託しており、コメ代だけでなく輸送費の上昇の影響も受ける。副食に使える予算が減り、栄養量を確保できないという。

角田市は週5回の米飯給食を実施する。小学校の場合、18年度の1食当たりのコメ価格は14年度より3.2円も上昇。今年10月の調査でエネルギーの充足率は100%を下回った。

市給食センターの担当者は「摂取基準に達するよう使う食材を工夫しているが、簡単ではない。充足率100%になる献立でも児童生徒が好まず、残されては意味がない」と話す。

「国が定めた基準がそもそも高すぎる」と話すのは石巻市教委学校管理課の担当者。多くの自治体が摂取基準を満たしていない鉄の充足率は石巻でも17年度、小学校76.7%、中学校75.0%と基準を下回った。

東松島市も鉄は小学校84.7%、中学校89.3%にとどまる。鉄分入りヨーグルトを献立に加えて充足を試みるが、基準を満たすのは容易でない。市教委学校教育課の担当者は「努力しているが、それだけではどうにもならない」と訴える。

実は、牛乳のカルシウムを吸収する酵素が日本人には少ないと言われています。

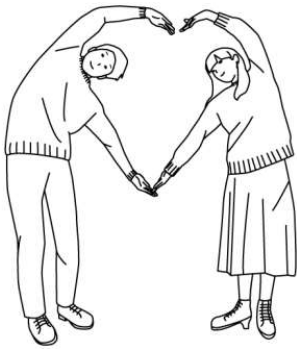
また、牛乳を飲むようになったのは、戦後のこと。それまでは、牛乳を飲む習慣はありませんでした。

さらに、成人の摂取量は1日130mlと厚労省が出しているのに対し、小学生には200mlの牛乳を出しています。ちなみに保健所では、200~400ml飲むように指導する方もいて、小さければ小さいほど飲む量が増えるというおかしな現象が出ています。

もとはと言えば牛乳は牛の血液。人間の体には合わないとも言われています。

だからこそ、私たちは、牛乳を摂らずにカルシウム量を増やすために、玄米の炊飯で使っている業務用圧力鍋を追加購入し、魚を骨ごと食べられるような調理法で、カルシウムを摂れるようにしたり、ジャコや納豆なども近年追加しています。

ジャコは高騰してしまい、1万円/kgの時があり、さらに豆なども、数年前の倍に値段が跳ね上がったたり、納豆も1回3kg使用するなど、どうしてもコスト高になってしまっているという現状があります。



私たちが無農薬・有機栽培にこだわる理由

有機や無農薬と聞くと、なんだかよさそうと思いつつも、値段の高さから、購入するのを躊躇してしまうことはありませんか？

安い方に手を伸ばしたくなる気持ちは、私たちも同じです。それでも、有機や無農薬にこだわりたいのには理由があります。

まだまだ使われている農薬

農薬は、つまり殺虫剤、除草剤、殺菌剤、殺鼠剤…のこと。

成長の過程で何度も農薬や除草剤を使う農家は少なくありません。

農薬は認可されているモノしか使えず、国が管理しています。しかし、いくら認可されている薬品でも、それは現在の日本の規制をクリアしているという意味にすぎません。

1971年の農薬取締法改正でDDT・水銀剤・BHC・245Tなどの農薬が使用禁止になりましたが、それまでは使用されていました。



今認可されている農薬も、未来には禁止になる可能性は十分にあります。

農薬は、私たちの目の前で散布されていないので、実感がありませんが、目の前で野菜に吹きかけたのをみたり、農薬が残る水を飲みと言われたら、ちょっとぞっとしてしまいます。

認可されているかを問うより、「草花が枯れ、虫が全滅するような薬」であることに変わりはない薬品が農薬です。そんな農薬まみれの食品は、できることなら、お預かりしている大切な子どもの体に入れたくないというのが、私たちの思いです。



ポストハーベスト

ポスト＝後 ハーベスト＝収穫

つまり、収穫後に散布される農薬のことで、日本では禁止されています。（ただし、食品添加物という名目で輸入品にはかけられています）

海外から来る生鮮食品は、貨物船で運ばれてくることもあります。新鮮な果物がずっと腐らないのは、様々な薬品のおかげでもあります。

生鮮食品もさることながら、加工品はどうでしょうか？

海外の加工食品の原料にどのようなものが使われているかを正確に把握するのは至難の業。

すべてダメではないけれど、避けられるなら避けたいのが輸入品です。



教育施設だからこそ地産地消にこだわる

大切なのは、食育としての地産地消です。TPPにFTAと、海外のものを安く買うことが出来る時代の中にいます。良いものを安く買えるならそれに越したことはありません。

しかし、同時に、社会情勢の変化で日本の農家がなくなってしまうのもいけない。

輸入もいいけれど、日本人が日本の農業を支えることも大切なことです。これからの日本をいずれは背負って立つ人材である子どもたちの原風景として、できる限り土地のものを使った和食を大切にしたいのです。



お米を作ってくださっている富樫さん

海外のものや国産のものでも、安いものはたくさんあります。

もちろん、大量に仕入れるなどのコストカットや品種改良、機械化…と、農家の方々の努力によるコスパの良さであれば、大歓迎です。

しかし、中には、収益率を上げることに重きを置いた裏側があることもあります。

私たちの調査能力では、最安値のものを一つひとつ調べることは残念ながらできません。

蔵王の農家さん・仙台のお魚屋さん・向山のことを知っている八木高さん…と、できる限り顔の見える信頼できる方から購入することが私たちにできること。そして、その方々が信頼しているのは、国産のものなのです。

向山レシピ本 絶賛発売中！

有志の保護者の方が作成☆



お求めは、こびとのティールーム、もしくは職員室で♪
 (1冊 850円)



数字で見る向山

広大な敷地に広い保育室、園庭、いろいろな動物。他園にはない特徴がたくさんある向山。

しかし同時に、上乗せ徴収が少しあるため、正直高いな…と思われる方もいらっしゃると思います。

そこで、向山の面積や保育者の数を、数字で表してみました。少しでも皆様にご納得頂けると幸いです。

数字で見る保育者の数



<設置基準>

年齢	子ども：大人の比率
1・2歳	6：1
3歳	20：1
4・5歳	30：1
園長・主幹教諭	各1



<向山こども園（2023年度現在）>

年齢	子どもの人数	必要数	向山こども園の配置	
			保育者	サポートスタッフ
1・2歳	42名	7名	11名	1名
3歳	70名	3.5名	6名	1名
4・5歳	各70名	各2.3名	年長4名 年中5名	1名
園長・主幹教諭		2名	2名	
ゆうやけ担当			4名（専属） + 2名	
子育て支援			2名	



向山では、14.5名必要なところに、33名の保育者がいるので、**約2倍以上**の保育者が配置されています。もちろん、これは一番単純に計算したものなので、一例と考えていただきたいのですが、他園よりもかなり多くの保育者がいるのが分かります。

保育者不足の今、これぐらいの保育者が配置されている園は、滅多にありません。

数字で見る建物の面積



園庭	1人当たり3.3㎡必要。(1.2歳も必要として含みます) 園児が252名(2023年度目標)いるとすると、831㎡必要。 向山で子どもが遊べる外の面積は、8893㎡。 10.7倍 の面積
ひいらぎ棟	3・4・5歳の子どもたちは1人当たり、1.98㎡必要。子どもたちが70名(2023年度目標)いるとすると、138.6㎡が必要。 ひいらぎ棟は、449.20㎡。 3.24倍 の面積
まきば棟	3・4・5歳の子どもたちは1人当たり、1.98㎡必要。 まきば棟の子どもたちは140名(2023年度目標)いるとすると、277.2㎡が必要。保育室、ロフト、アトリエ、廊下を足すと 921.39㎡。 3.32倍 の面積
ばっぱんち	1・2歳の子どもたちは1人当たり、3.3㎡必要。 ばっぱんちの子どもたちは24名いるので、79.8㎡が必要。 ばっぱんちは、保育室とランチルームと廊下で172.84㎡。 2.18倍 の面積
駐車場	最低園児の1割の台数を確保するとして、26台分。 1台12.5㎡と仮定すると、325㎡が必要。駐車場は4540㎡。 13.9倍 の面積

※基準値は、単純化するため、計算の仕方によっては数字が上下することがあります。
※人数などは時間によって変化します。
※2023年度の基準値をもとに計算しております。
※あくまでも概算と考えてご覧いただければ幸いです



保育の質を保つために

保育の質の向上のために、保育者は保育計画を作成し、保育を行い、記録し、検証するというプロセスを常に行っています。

これは、PDCAのサイクルといわれ、一般企業ではすでに行われているものですが、保育現場でも行われています。

2018年に改定された幼保連携型認定こども園教育保育要領（以下、教育保育要領）の中にも、カリキュラムマネジメントという文言で、このPDCAのプロセスを行うように明記されています。

向山では、このプロセスを行うためにいくつかの工夫をしています。



専門的なお話

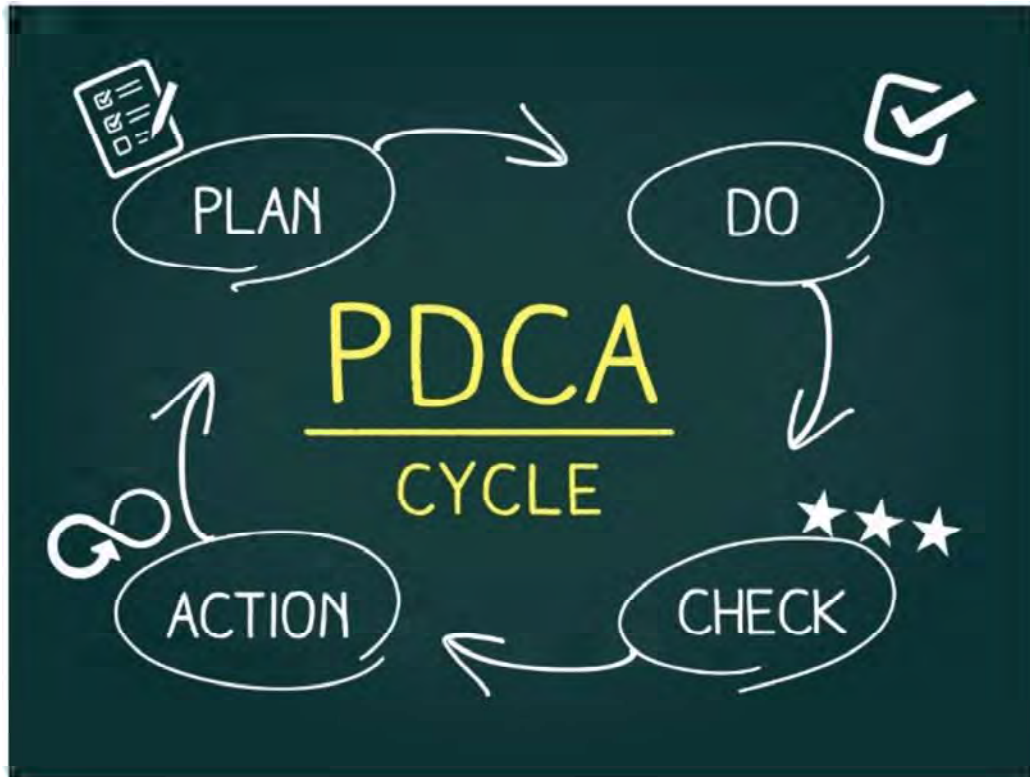


記録について

①カリキュラムに基づく保育

カリキュラムマネジメントというくらいですから、カリキュラムが必要です。

向山は、教育保育要領で定められた、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を、各学年でも使いやすいように作り直し、日常的に使いながら、子どもたちのやりたいこと・興味のある遊びに最大限寄り添いつつ、体系的に保育を展開できるようにしています。



	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
学年の最後に育ってほしい姿	<p>身近な大人を安全基地として安定して過ごす 自分から体を動かそうとする危険なところがあることに気付く 園での生活リズムに慣れる 身近な大人のやっていることを一緒にやってみる 興味関心をもったところを自分で探索する いろいろな気持ちを身近な大人に受け止めてもらう 保育者が仲立ちとなり、他児との関わり方を知る 園内のヒト・モノ・コトに保育者と触れる 園内のヒト・モノ・コトに保育者と関わる 周りの人の姿を見て真似する 思ったことを指さしや声などで表現する 音や色、手触りなどに気付いたり感じたりする</p>	<p>自分から体を動かすことを楽しむ 自分でやってみようという気持ちをもち、取り組むことを知る 様々な感情体験をして共感してもらう いろいろな大人や他児がいる中で過ごす心地よさを感じる 身近な大人を介して他児との関わりを楽しむ 園内外のいろいろな世代の人に触れる 身の回りのものや自然物を五感で触れる 自分で思ったことを言葉で伝えようとする 身近な動植物に触れ親しみをもつ 模倣をしたりして遊ぶ 生活や遊びのイメージを豊かにし表現する 食べることの楽しさを感じる 着脱・排泄などの習慣が身に付く 自分でできたうれしさを感じる</p>	<p>体を動かす心地よさを感じる 順番やルール、集まりや片付けなどの集団の基本的な生活習慣を確立する 楽しい雰囲気の中で食事をする 危険な遊びに気づく 自分の思いを出す 保育者に気持ちを受け止めてもらう 友達と過ごす心地よさを感じる 友達の遊びを取り入れる 園内の職員の姿に触れ、生活や遊びに取り入れる 経験してきたことを模倣し、自分ではないものになってみる 音楽を聴いたり歌ったり、身体表現を楽しむ 様々な素材や動植物に触れながら、想いをもって試しながら遊ぶ 保育者や友達と言葉のやりとりを楽しむ</p>	<p>戸外で全身を使って遊ぶ 使える道具が増える やっちはいけないことを理解する 仲間と遊び、認められる クラスや仲間のことに興味を持つ 自分の思いを適切な形で表現する 友達と考えて継続して遊ぶ 相手の思いを聞こうとする 生き物に一定期間継続して触れる ルールを守ったり勝ち負けなどの遊びに触れる 季節の変化を遊びに取り入れる 園内の人の役割を知り、遊びの中で取り入れようとする 遊びの中で数字や文字や重さなどに触れる 様々な表現に触れ、遊びに活かす モノの仕組みなどに興味を持つ 様々な保育教材や動植物に触れその特性を知り遊びに活かす</p>	<p>健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活とのかかわり 思考力の芽生え 自然とのかかわり・生命尊重 数量・図形・文字等への関心・感覚 言葉による伝えあい 豊かな感性と表現</p>



幼児教育

学年ごとの指導計画～1・2歳～

幼児教育の重要性

		入園～1歳3か月	おおむね1歳3か月～2歳未満	おおむね2歳
ねらい	保育者	・保育者との愛着関係を形成でき、安定した生活を送れるようにする	・一人一人の生理的欲求や甘えなどの欲求を満たす	・家庭と連携しながら休息も含む適切な生活習慣や休息をとれるように配慮する
	子ども	・様々なものに触れ、興味関心を持ち、探索し、保育者に見守られながら体を動かして遊ぶ	・保育士との愛着関係構築の中で、模倣遊びをしたり、自分の気持ちを表そうとする。 ・保育者を安全基地とした探索活動の中で、少しずつ行動範囲を拡大する	・様々な環境に触れ、興味をもつ。 ・自分がやりたいと思うことを見つける
保育	生命の保持	・一人一人の健康状態を把握し的確に対応する ・一人一人の生理的欲求が満たされるようにする	・一人一人の健康状態を把握し的確に対応する ・一人一人の生理的欲求が満たし、適度の運動と休息がとれるようにする	・一人一人の心身の発育や発達の状態を的確に把握し、対応する。 ・家庭と連携しながら適切な生活習慣が作られていくようにする。
	情緒の安定	・保育者の愛情豊かな需要により安定した生活が送れるようにする。 ・保育者との愛着関係の中で自分の気持ちを表すことができるようにする。 ・信頼関係を基盤に一人一人の子どもが探索意欲を高められるようにする。	・一人一人の子どもの気持ちを受け容れる。 ・保育者との愛着関係の中で信頼関係を気づき、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ・一人一人の子どもの生活状況などに応じて活動内容のバランスや調和を図っていくようにする。	・一人一人の子どもの気持ちを受け止め、共感する。 ・自分でやりたいと思う気持ちを最大限尊重し、納得いくまで行う。 ・活動のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息がとれるようにする ・友達と一緒にいることの安心感を感じる
教育	健康	・離乳食をおいしく食べる。 ・体の状態を細かく観察し、適切な対応をする	・スプーン・フォーク、手づかみで食べようとする。 ・卒乳する ・排泄の不快感と保育者にきれいにしてもらった感覚を繰り返し感じる	・戸外で遊ぶ。 ・おもつが取れる
	人間関係	・身近な大人に関わる ・見守られながら一人遊びをする	・安心できる保育者との関係の下で、模倣して遊んだりする。	・保育者と友達とかかわって遊ぶ楽しさを感じる
	環境	・様々なものに触れ、興味、関心を持ち探索する	・好きな玩具や遊具、自然環境に興味を持ち、自ら関わって遊ぶ	・園内の様々な環境に触れ、興味を持ってかかわり遊ぶ。
	言葉	・保育者との応答関係の中で言葉を使おうとする	・保育者との自分なりのやり取りをし、人とのやり取りの心地よさを味わう。	・話したいことを話し、聞いてもらうことを楽しむ。
	表現	・保育者との応答的なかわりの中で体を動かして遊ぶ	・保育者と一緒に、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして遊ぶ	・保育者と一緒に絵本を見る。 ・自然の物に触れ、感触を楽しむ
食育		・家庭との連携の中で離乳や卒乳を進める	・楽しい雰囲気の中で食事をする	・スプーンやフォークなどを使い、意欲的たべ、感じたことを表現しようとする
木育		木の感触を感じたり、匂いを感じる。		50 ごっこ遊びなどで、木のおもちゃに触れながら遊ぶ。

学年ごとの指導計画～3・4・5歳～

		年少	年中	年長
ねらい		様々なことに興味を持って取り組む中で好きなことを見つける	主体的に様々な環境に関わりながら、心を動かす経験をする	1人ひとりが自分の持ち味を出し、人の持ち味を認め、活かしあう楽しさを知る。（経験する）
保育	生活	・基本的な生活習慣や生活リズムを身に着け、園生活になれる	・自分の身の回りのことを自分でやろうとし、出来たことで自信を持つ ・自分たちの送りたい生活を自分なりに考え、試してみる	・周りの人にも目を向け、自分たちの生活環境を自分たちが作っているという意識を持って主体的に生活する
	人とのかかわり	・様々な年齢の人とかかわりながら、様々な感情体験をする。 ・大人に気持ちを受け止めてもらう経験を通して、自己肯定感を持つ	・周りの大人や異年齢の子どもをしていることに興味を持ち、見たり、聞いたり、関わろうとしたりする。	・様々な人に触れる中で、憧れを持つ。 ・社会の一員であることの心地よさを感じ、人と一緒に生活することのうれしさを感じる
教育	健康	・保育者の手を借りながら食事・着脱・排泄等を自分でしようとする ・体を動かして遊び、やってみたいことに挑戦してみる	・基本的な生活習慣の必要性を理解し、自立する。 ・十分に体を動かし、楽しさを感じる。 ・自分のできることできないことを知り、危険予知をしようとする	・遊びの中で、ダイナミックさや緻密さなど、幅広い遊びの楽しさを知る。 ・周りの人と相談しながら、安全に楽しく遊ぶ方法を考え調整しようとする
	人間関係	・保育者や友達とかかわって遊ぶことの楽しさを感じる。 ・一人で没頭できる遊びに触れる。 ・人とかかわった時の自分の気持ちの変化に気づく	・好きな友達とかかわりながら、仲間意識を感じる。 ・相手の気持ちに触れ、自分の気持ちも表現しようとする ・仲間と遊ぶことの楽しさ、心地よさを十分に感じる ・うまくいかないときに、解決しようとする	・集団遊びや多様な関係の中で遊ぶことで、人の気持ちに触れ、その場にあったやり方を自分なりに考えたり、人と相談し、解決しようとする。 ・自分が人の役に立つという実感を持つ ・仲間がいることで一人では感じられない喜びが感じられるという実感を持つ
	環境	・自然環境や動植物に触れることで、興味関心を持つ。 ・自分で使える道具や素材が増え、自分なりに使おうとする	・自然環境や動植物と触れ合いながら、それらを取り入れて遊ぼうとする。 ・様々な道具や素材を組み合わせたり、自由に使うことで、自分の考えたことを実現しようとする	・自然環境や動植物の強さや弱さを実感し、自分がどのようにかわればよいか考える。 ・興味を持ったものを自分なりに調べようとしたり、人に聞いたりしながら、いろいろなことを知ることに楽しさを味わう。 ・自分たちのイメージしたものを作ったり、形にしたりすることで、自己肯定感を高める
	言葉	・思ったことや感じたことを、保育者や友達と話したり、聞いてもらう心地よさを感じる。 ・絵本やイメージの世界を楽しむ	・自分の思ったことを言葉で伝え合うことの心地よさと大切さを感じる。 ・イメージやファンタジーの世界を楽しみ、想像することを楽しむ	・数や文字などに触れる。 ・相手の話にも耳を傾け、言語、非言語を使ったコミュニケーションにより、遊びや生活を進める
	表現	・経験したことをごっこ遊びに取り入れ、表現して遊ぶ。 ・音楽やリズムに合わせて友達と表現することを楽しむ	・ファンタジーやイメージの世界を保育者と一緒に絵や音楽や身体活動などで表現することの楽しさを味わう	・感じた事や思ったこと、想像したことを表現して遊ぶ。 ・友達と表現することの楽しさを知り、作り上げることの面白さを感じる
	食育	・食べることの楽しさを感じる。 ・自分たちで栽培したものを食べたりする。 ・食事のマナーを知り、楽しく食べる	・いろいろな食べ物があることを知り、興味を持つ ・大人が作っている姿に触れる ・食事に関わることで、楽しさを感じる	・食事ができる過程を知り、命に触れる。 ・自分の命と食事の関係を感覚的にとらえる。
	木育	・ごっこ遊びなどで、木のおもちゃに触れながら遊ぶ。 ・暖炉やたき火で木や枝が燃え、温かいということを感じる	・木を遊びの中に取り入れ、自分たちで作ることの楽しさを感じる。 ・自分たちで火に触れてみながら、その楽しさと危険性を知る	・木が生活の様々なところで使われていることを感じ、自分たちの遊びの中でもより使ってみようとする ・生きている木、遊びや暖を取るために使われる木、森の栄養になる木等、森の循環を体験的に感じる

②日々の記録とカンファレンス

保育の質を向上するためには、毎日の記録をつけ、記録に基づくカンファレンスを行うことが大切です。

カンファレンスは、週・月・期の単位で保育の振り返りをし、保育のねらいに対してどのように保育が展開されているのかを振り返り、計画を修正していきます。

このカンファレンスを安定して行うため、保育者の数を基準より多く配置し、いつも同じメンバーで話し合いをすることが出来るようにしています。



フォーム FORM

保育者が使用する日常的に使用する記入画面

てんし 8・9月 振り返り

子どもの名前*

子どもの名前を選ぶ

遊びの名前を選ぶ

遊び*

動物のお世話

畑

リレー

羊の散歩

夏休み話し合い

田んぼ

美まり

カプラ積み競争

フルーツバスケット

虫探し

5領域*

人間関係

健康

環境

音楽

表現

10の姿*

健康な心と体

自立心

協調性

積極性・積極意欲の芽生え

5領域
10の姿を選ぶ

ナラティブ・アセスメント (エピソード) *

何回か入力

送信

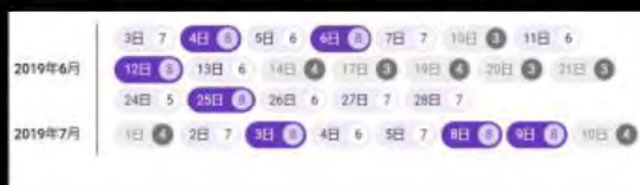
エピソードを記録して送信!

保育者は、このカンファレンスの資料になる日々の記録を、タブレットを使って作成していきます。

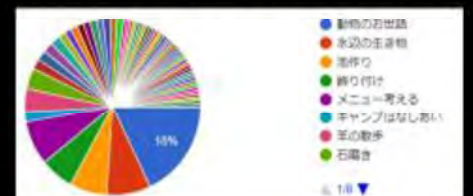
記録をICT化することにより、効率的に検索をしたり、分析をすることが出来る、より子どものことを理解し、かつ、保育の評価をすることが出来ます。

フォーム FORM

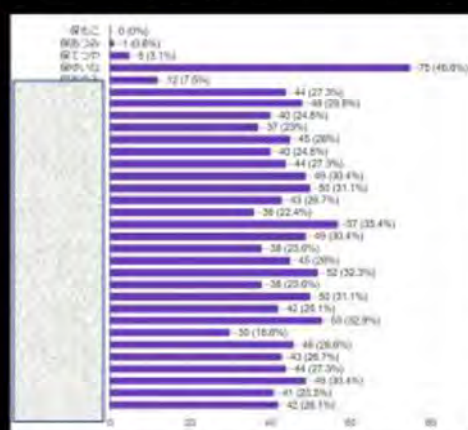
どの日に何件つけている?



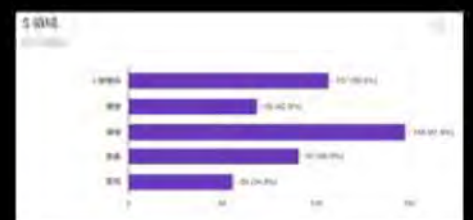
どの遊びを記録している?



ちゃんと見れているかな?



5領域



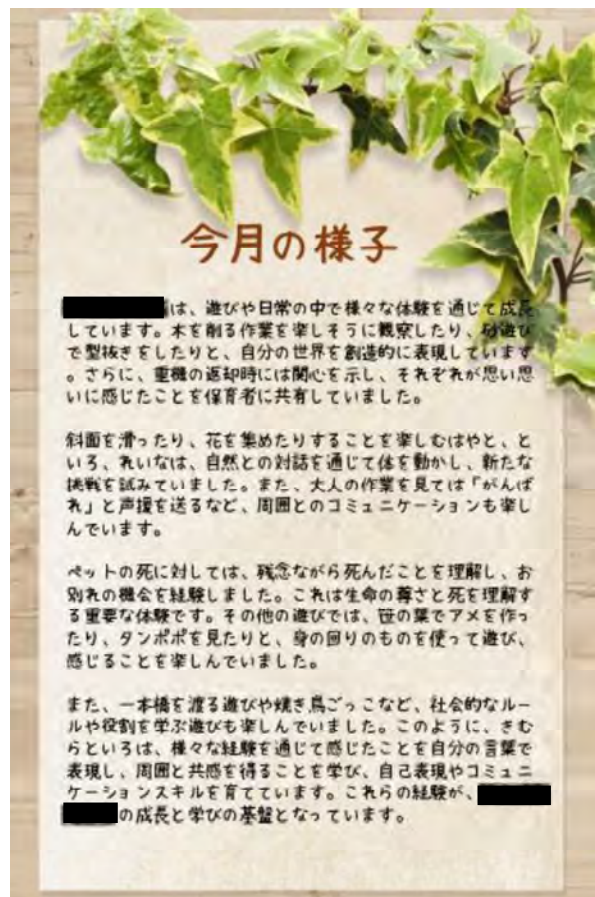
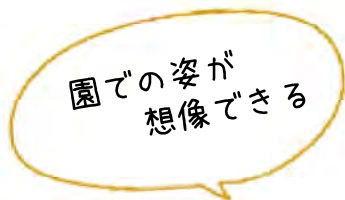
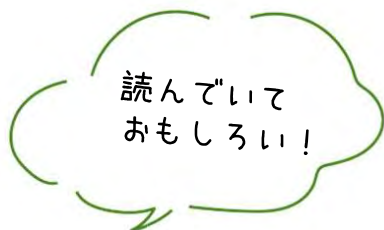
10の姿

③ ChatGPTを使った新たな挑戦

ChatGPT。今、多方面でとても話題になっていることは、みなさんもお存知ではないでしょうか？

以前から、月末にお子さんの様子を書いたものを保護者の方にお配りしていましたが、今年度からはこのAI技術を使い、保育者が日常的に作成している保育記録を要約したものをお渡ししています。

実際、保護者の方からはこんなお声が♪



実際にお渡ししている月末記録



もちろん、様々な安全対策は行った上で、1人1人の記録を要約していますが、中には心配な方もいらっしゃるかと思います。

年度当初に、要約した文章を受け取るか受け取らないかのアンケートを取らせて頂いていますので、ご安心ください。

～ 文献紹介 ～

ありがたいことに、保育者の読む書籍や専門誌に取り上げていただくことが多い向山。一部ではありますが、少しご紹介させていただきます。



環境が豊かだと、あそびから深い学びが生み出される
 執筆：大豆生田 善友

ダイナミックさとこまやかさと
 向山こども園では、あそびの環境が豊かです。一つは、園庭の裏山でのアスレチックや、室内でのボルダリングなど、実にダイナミックなことです。遊具期に子どもが全身を使ってあそぶことは、主体的な姿勢を培うだけでなく、運動能力の育ちなどの観点からも重要であると言われています。そうした環境が保障されていることはとても大切です。

多様なあそびとブームと
 また、この園では、多様なあそびが生まれていることがわかります。毎々の子どもの興味・関心を大事にして環境を提供し、

子どもたちの「やりたい!」は、多様です。子どもの思いが通った環境を構成しようと思うと、その環境も多様になっていきます。多様で互いのあそびが見える環境にあると、子どもたちは自分のあそび以外にも興味をもたせ、互いのあそびがのびのびと広がったりし、より深い学びが生まれます。

「どのクラスにも室内で季節を感じられるよう、季節のテーマ」がある。



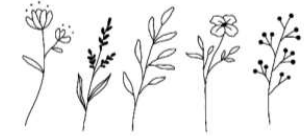
ているからこそ、多様なあそびが生まれるのです。子どもが好きなあそびばかりしていると、子どもの経験に偏りが生まれるのではないかと言われることがあります。しかし、それはむしろ逆です。自分がだんだんやらなくなっていくあそびへの興味を生み出す。ふんからあそびの経験を通して子どもは、言葉に話かの子と協同して活動できるようになります。3歳児の着ぐるみなどのブームもそうです。子どもの興味・関心に応じた環境を整えていくことは、結果的に、本来的に目的意識を持って活動を通して、あそびの子ども「楽しい学び」へとつながっていくのです。



こちらは、玉川大学の大豆生田先生が監修された記事に取り上げていただき、「環境が豊かだと、遊びから深い学びが生み出される」との題で、コメントをいただきました。



こちらは、玉川大学の大豆生田先生が監修された記事に取り上げていただき、「環境が豊かだと、遊びから深い学びが生み出される」との題で、コメントをいただきました。



こちらは保育学会前会長 汐見先生が出版されている本にいくつか記事を出させていただきました。

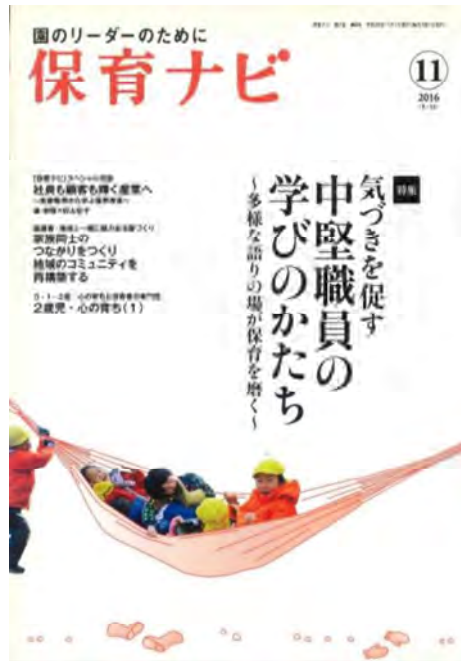


2年後の時間はあえて多様な遊びを生み出す
 保育者は、子どもたちと日々関わりながら、子どもたちの成長を促す役割を担っています。そのためには、子どもたちが興味・関心を持って取り組めるような遊びを提供することが大切です。また、子どもたちの成長を促すためには、保育者が自分自身の成長も怠りません。保育者は、子どもたちと一緒に成長していくことが大切です。





こちらは、玉川大学大豆生田先生編著の行事についての本です。



保育内容や環境、職員の働き方、カンファレンスのことなど、様々な本や雑誌等のメディアに取り上げていただき、私たちも学びを深めさせていただいております。ご覧になりたい方は、スタッフまでお声がけください。



